

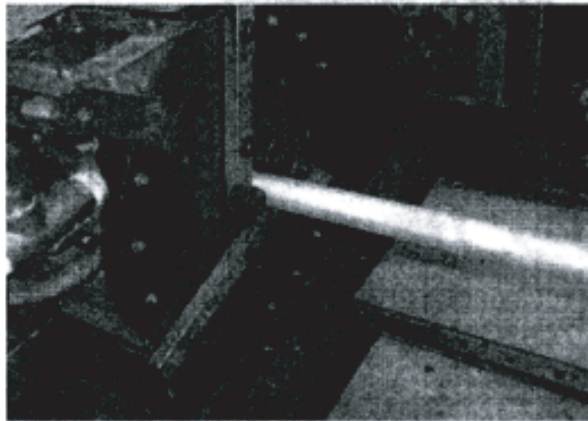
金属 高強度化で量産技術

九大発ベンチャー「リナシメタリ」

素材熱処理、三松と連携

車・航空機部品も受託

【北九州】リナシメタリ（福岡市中央区、中村克昭社長、092・716・7166）は、金属を加熱・せん断することによって結晶を微細化、強度を高める金属加工熱処理技術「CREO（クレオ）」の受注を始めた。これまでは受託研究だったが、金属加工の三松（福岡県筑紫野市）と連携して量産対応を始めた。素材加工のほか、自動車や航空機など強度が要求される部品製造も始める。



熱間鍛造と比べ50%程度強度が向上する

リナシメタリは九州大学発ベンチャー。クレオは九州大学、九州工業大学と共同で開発した結晶粒微細化プロセス。チタンやマグネシウムなどの棒材に550度C程度の熱処理を施し、ねじり変

形させつつ急冷する。これにより強化元素の溶け込み（固溶）を促して素材強度を向上させる。熱間鍛造と比べて強度が30〜50%上がるという。また鍛造後の焼き入れと熱処理によるひずみの矯正が不要。割れや変形が発生せず、作業時間も半分以下で済む。一方、金型加熱装置を使った塑性加工の受託も始めた。材料を加熱し、加熱金型でプレスした板

材などを成形する技術で、鋼材やアルミニウムに利用できる。

三松はこれら各種技術を夜須工場（福岡県筑前町）に集約、加工業務を受託する「RMAセンター」を開設した。同社は切断や溶接などの金属加工で技術力を備える。クレオ

設備の製造や部品生産を請け負い、3年後をめどに数億円事業に育てる。

リナシメタリの中村社長は「自動車や医療、航空・宇宙などの分野に期待できる。量産から多品種少量まで対応できるように用途に応じて提案する」と期待している。